

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	高次脳機能障害 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 月曜2限・金曜1限	教室名	第4校舎401
担 当 教 員	丸山 めぐみ	実務経験とその関連資格	友愛会病院で言語聴覚士として勤務し、成人(脳疾患等)の言語聴覚療法に携わる。			
《授業科目における学習内容》						
高次脳機能障害とは何かを理解できる。各高次脳機能障害の定義を理解し、症状の特徴を説明することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書 : ①標準言語聴覚学 高次脳機能障害学(白テキスト) パワーポイントのスライド配布資料						
《授業外における学習方法》						
予習・復習ともに①の該当箇所をよく読み込む。随時確認問題を実施します。						
《履修に当たっての留意点》						
言語聴覚士は、多様な高次脳機能障害の患者さんと関わります。 専門用語をその都度整理して正しく理解し、高次脳機能障害について理解を深めてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害とは何かを説明することができる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の基本概念1			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害とは何かを説明することができる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の基本概念2			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	失認の症状、発現メカニズムを説明することができる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	統覚型視覚性失認、統合型視覚性物体失認、連合型視覚性物体失認について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚性失認と視覚性失語の違いを説明することができる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	視覚性失語			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	物体失認以外の視覚性失認について述べるることができる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	相貌失認、色彩失名辞			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	半側空間無視の症状および発現メカニズムを説明することができる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
		各コマにおける授業予定	半側空間無視の定義、症状、発現メカニズム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	視空間失認それぞれの特徴を説明することができる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
		各コマにおける授業予定	地誌的見当識障害		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	失認の定義、それぞれの特徴を説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
		各コマにおける授業予定	失認について総まとめ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			